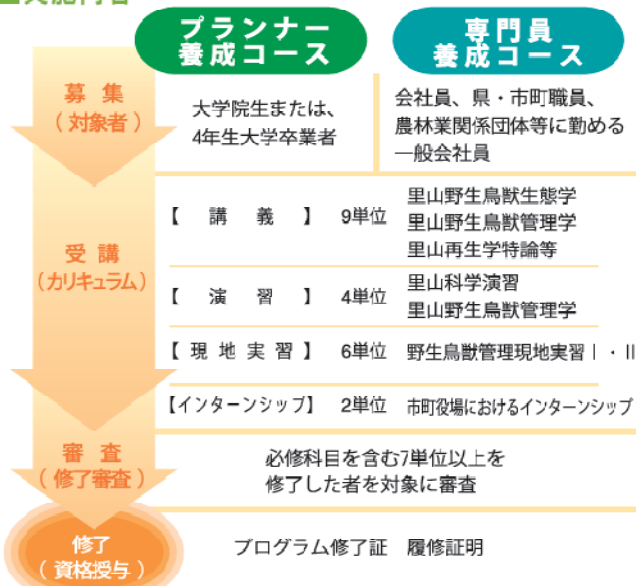


里地里山の保全・活用の取組における課題と技術的方策等

分類	(地域レベルでの取組基盤の整備)地域の自発的取組を促す支援体制の強化
手法名	「里山野生鳥獣管理技術者養成プログラム」 集落の合意形成・計画づくりのコーディネータとなる人材の育成
主体	宇都宮大学、栃木県
背景 (地域の課題)	獣害対策は、個別の技術としては確立しているも、実際に現場で防除技術や設備を有効に機能させるためには、地域ぐるみの取組が必要である。そのためには、住民が協力し、誰がどこにどのような技術を用いて対策を講じるか、といった、各現場と住民の状況に即した合意形成と計画づくりを行う必要がある。そのためには、獣と獣害に対する正しい認識や調査方法・防除技術の知識をもち、住民の合意形成を進めるコーディネーターの存在が必要である。
手法/方策の詳細	<p>宇都宮大学では、上記のようなコーディネータを地域住民の中から養成するため、栃木県地域再生計画「人とケモノが住み分けるふるさと栃木の人づくり」と連携して、以下のようなカリキュラムで人材養成プログラムを行っている。平成21年度は第1期生約40名の県内住民が学んだ。</p> <p>「地域鳥獣管理プランナー養成コース」                  地域の実施計画策定にむけた法律的な知識、動物の知識、農林水産業の活性化する計画づくりの技能を取得。大学院生または4年生大学卒業者を原則とし、野生鳥獣による被害状況や地域資源の情報収集、問題点の解明、解決法の提案と実施計画策定まで、科学技術を基盤としたトータルな対策を計画する能力を備えた技術者を養成する。</p> <p>「地域鳥獣管理専門員養成コース」                  普及指導、生態調査、捕獲ができる技術者を養成。対象は、会社員、県・市町職員、農林業関係団体等に勤める社会人など一般の方。野生鳥獣の実態をふまえた効果的で低コストな被害対策の普及指導や、野生鳥獣の生態調査等、現場における適切な指導・助言を行うことのできる技術者を養成する。</p>
手法・技術的視点	プログラムの実施内容とカリキュラムとして、10科目。実践としての鳥獣害の対策と同時に、地域の里山のこと、地域の再生について学ぶカリキュラム。市町が鳥獣害対策の前進基地になることから、市町でのインターンシップと担当者や地元、関係者との良好な関係を作るためのカリキュラムを策定。

■実施内容



■開講科目

科目名	プランナー養成コース	専門員養成コース	単位数	時間数
里山と野生鳥獣	必修	必修	1	12
里山科学論	選択	選択	2	21
里山野生鳥獣生態学	必修	選択	2	21
里山再生学特論	選択	選択	2	21
里山野生鳥獣管理学特論	必修	選択	2	21
里山科学演習	選択	随意	2	21
野生鳥獣管理学演習	必修	随意	2	21
野生鳥獣管理現地実習Ⅰ	随意	必修	3	28.5
野生鳥獣管理現地実習Ⅱ	随意	必修	3	28.5
里山インターンシップ	選択	随意	2	21
修了審査	必修	必修	-	-

※必修：コースの修了までに必ず履修しておかなければならない科目  
 ※選択：必修科目とあわせて履修すると履修証明書が取得できる科目  
 ※随意：履修してもコースの修了に必要な単位には算入されない科目

参考資料	里なび研修会in栃木 宇都宮大学特任助教 江成広斗、特任助教 小寺祐二、特任准教授 高橋俊守
------	--

「里山野生鳥獣管理技術者養成プログラム」カリキュラム

文部科学省科学技術振興調整費 宇都宮大学「里山野生鳥獣管理技術者養成プログラム」 ホームページより  
<http://ssrc.utsunomiya-u.ac.jp/wmtp/curriculum.html>

科目名	授業の目的とねらい
里山と野生鳥獣	里山における人と野生鳥獣の軋轢・被害の状況、関連する法律や制度等について解説する導入科目です。鳥獣害対策では、関連する専門的な知識・技術とともに、地域の人と人をつなぐコーディネーターも大切な要素になります。そこで、地域コーディネーターの鳥獣害対策に果たす役割についてもあわせて解説します。プログラム受講に際して基本的な知識を身につけるとともに、受講の目的を明確にすることがこの授業のねらいです。
里山科学論	里山の特性や、その潜在的な価値について、多角的に学んでいきます。宇都宮大学農学部を中心とする教員グループが取り組んでいる、国連ミレニアム生態系評価「里山里海サブ・グローバル評価」の成果を基に、栃木の里山の特性と課題、予測される将来の状況について解説します。里山の多様な恵みについて幅広く理解するとともに、その現状と将来の展望を得ることがこの授業のねらいです。
里山野生鳥獣生態学	鳥獣害対策の基本は、里山に生息する野生鳥獣の生態を正しく理解することです。そこで、栃木県の里山に生息する鳥類や哺乳類を具体的に採り上げ、それらの生態について詳しく解説します。さらに、鳥獣害対策の基礎データを整備するための調査方法、関連する自然環境関連法、生物多様性保全の計画についても解説します。野生鳥獣の生態や、関連する基本的な制度を学ぶことがこの授業のねらいです。
里山再生学特論	里山を活性化するために採られている様々な方策について解説します。地域特産品の開発、地域活性化協議会の設置、里山ツーリズムの展開、地域通貨の導入等の具体例とその効果、これからの可能性について解説します。里山の恵みを持続可能な形で利用するための現代の方策について具体例を通じて学び、知識を獲得することがこの授業のねらいです。
里山野生鳥獣管理学特論	里山における鳥獣害発生の背景や、特に被害が甚大なイノシシ、シカ、サル、クマ、カラス、カワウの被害対策について詳しく解説します。栃木県と市町村が現在取り組んでいる鳥獣害対策の具体的な方法についてもあわせて解説します。野生鳥獣被害防除の理論と具体的な手法について学ぶことがこの授業のねらいです。
里山科学演習	宇都宮大学近隣の里山をフィールドとして、里山の構造と成り立ち、住民への聞き取り調査の方法、里山における野生鳥獣の生態調査法等について解説します。宇都宮大学学内では、調査データの構築に有効な地理情報システムの操作法、野外で取得したデータの解析方法の基本について解説します。この授業では、里山における調査の方法と、調査データ処理の基本について、演習を通じて学ぶことを目的にしています。
野生鳥獣管理学演習	宇都宮大学近隣の里山をフィールドとして、イノシシ、シカ、カワウ、カラスなどの代表的な里山の野生鳥獣を例に、調査方法を解説します。さらに、地理情報システムを用いて整備した野外調査データの分析方法や、調査データの多変量解析を用いた解析法について、宇都宮大学学内にて解説します。この授業では、鳥獣害に関連する野生生物の調査方法と、取得したデータの分析方法に関する技術を学ぶことを目的にしています。
野生鳥獣管理現地実習I	栃木県内の鳥獣害の発生場所を実際に訪問し、それぞれの現場の特性に応じた防除方法の実践について学ぶ実習形式の授業です。地域ぐるみの取組みに欠かせないコーディネーターの役割、合意形成手法、獣害に強い地域のつくり方、栃木県の主要な獣害の原因となるシカ、サル、クマ、イノシシの防除方法の実践について解説します。鳥獣害対策の基本となる合意形成法、獣害に強い地域づくりを行うための具体的な方法について、現地で体験しながら修得することを目的にしています。
野生鳥獣管理現地実習II	栃木県内の鳥獣害の発生場所を実際に訪問し、それぞれの現場の特性に応じた防除方法の実践について学ぶ実習形式の授業です。近年分布拡大して被害域が拡大しつつある外来生物のアライグマ、ハクビシン、獣害に強い地域のつくり方、電波発信機を用いた野生鳥獣の行動圏調査法、野生鳥獣捕獲技術、獣肉の利用法等について学びます。鳥獣害対策の基本となる野生鳥獣の生態調査、捕獲法について、現地で体験しながら修得することを目的にしています。
里山インターンシップ	栃木県内の市町を受け入れ先として、一定期間インターンシップを行い、鳥獣害対策の主要な担い手となりつつある市町の取組みについて学ぶことを目的にしています。鳥獣害対策における市町の役割や地域連携のあり方について、インターンシップを通じて修得することを目的にしています。